〈 連載316 〉

シップ・オブ・ザ・イヤー

大阪経済法科大学・客員教授
池 田 良 穂

日本船舶海洋工学会が、「シップ・オブ・ザ・イヤー」という表彰制度を作って28回目になる。最初の受賞船は、1990年の「クリスタルハーモニー」だった。

今年の選考委員会から、筆者も加わらせていただくことになった。

選考委員会は、純粋な外部の目から公平に選考することにしていたので、委員にはマスコミやデザイナー等の中で船をよく知る人に就任をいただき、学会関係者は入っていなかったが、学会員の声も選考過程に入れる方がよいとの判断から、学会員対象のプレゼンテーションを実施してその会場票を加えることとし、さらに学会理事会の代表として広報担当理事１人が選考委員会に加わるようになった。

もちろん、学会の賞なので、単なる人気投票ではなく、一次審査として造船・海運の専門家が応募作品の技術的な審査を事前に行って、その詳細な評価が選考委員全員に事前配布されており、各選考委員はその評価表も参考にしながら選考を行うことになっている。

ちょうど「シップ・オブ・ザ・イヤー」が15回目を迎えた2004年に、筆者は学会の広報担当理事に就任し、同賞を担当することになった。当時の選考委員長は、旧知の柳原良平画伯であった。ご挨拶に伺うと『委員長・委員をそろそろやめたいな』がその第一声だった。「なぜですか？」と伺うと、「応募作品が毎回少なくなり、造船技術者のこの賞への情熱が感じられなくなっている」とのことだった。

担当した最初の募集に応じた作品は、募集が始まってしばらくしても、なんと１件のみだった。締め切りぎりぎりまで、各造船所や船会社に声をかけて、ようやくもう１件の応募作品がでてきた。これを経験して、柳原さんがおっしゃることが実感できた。

委員の方々の意見を聞き、また造船所の方々の意見も聞くと、いろいろな問題点が明らかになってきた。それまで、「シップ・オブ・ザ・イヤー」１隻と準賞を表彰することになっていたが、例えば、日本の造船業が得意とするバルクキャリアなどは、なかなか応募ができない。選考委員の方々か

らは、あらゆる船種が一緒くたに選考されるので、優劣がつけにくいという強い意見もでた。中華料理とフランス料理のどっちが美味しいかと聞かれているよう・・・とのことだった。

そこで、「シップ・オブ・ザ・イヤー」の改革を行うことにして、日本の造船会社・海運会社が応募しやすく、かつ選考もやりやすくするために、部門別に募集を行い、「シップ・オブ・ザ・イヤー」とその部門賞も表彰することにした。大型客船、小型客船、大型貨物船、小型貨物船、特殊船、舟艇とした。その後、漁船や海洋構造物などの部門もできて、応募作品の数も多くなった。

広報担当理事としては4年間「シップ・オブ・ザ・イヤー」の担当をしたが、この間、柳原良平画伯の辞意が固く、デザイナーの平野拓夫先生に新委員長をお引き受けいただくという仕事もして、なんとか無事役割を終えた。

その後、学会の副会長時代には、広報担当理事のサポート役として、選考委員会後の夕食会に毎回出させていただいたりとしていたが、3年前の大学定年の機会に、学会の役職もすべて終わることになった。

その後は、今年の「シップ・オブ・ザ・イヤー」はどの船かな？と、学会のホームページを覗く程度であったが、今年になって、学会の同賞の担当者から、選考委員になって欲しいとの打診を受けた。学会員は選考委員に入らない方がよいと思っていたので固辞したが、大学も退職してフリーの身だし、学会からは名誉会員という現職引退の称号もいただいており、さらに選考委員の方々と船の議論を丁々発止とするのも楽しそうなので、引き受けることにした。

さて、選考委員として最初の役目が、この5月にやってきた。今年の応募作品は10点で、力作ぞろいの分厚い資料が自宅に送られてきた。さすが目を通すのに数日かかり、ボランティアとして選考に携わってきていただいている選考委員の方々には頭が下がる思いだった。

本誌の夏季特集号に、結果が紹介されているので、詳しい説明は避けるが、2万TEUの超大型コンテナ船「MOL TRUTH」がグランプリに輝き、大型客船部門賞は「あざれあ」、小型客船部門は「鷹巣」、大型貨物船部門賞はPCC「TRANS HARMONY 1」、小型貨物船部門は「はいぱーえこ」、漁船・作業船部門は「天鷹丸」、海洋構造物・機器部門は「かいりゅう」という結果になった。

今年のシップ・オブ・ザ・イヤーは、今治造船で建造された超大型コンテナ船「MOL トルース」。授賞式には商船三井の池田社長と今治造船の檜垣社長が並んだ。

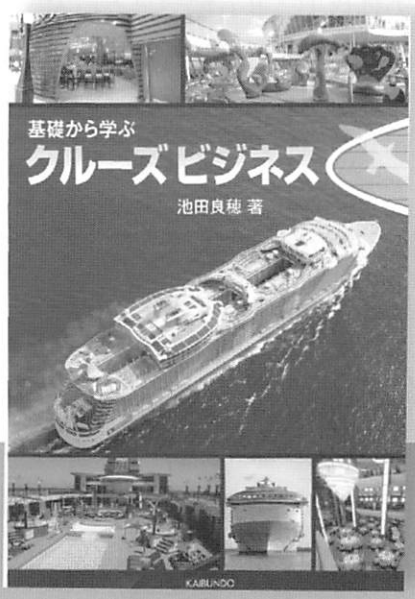
7月13日に、海運倶楽部で行われた授賞式は、「シップ・オブ・ザ・イヤー」だけでなく、日本マリンエンジニアリング学会、日本航海学会の海事三学会の合同表彰式として行われた。

登壇するシップ・オブ・ザ・イヤーの受賞者の顔は、喜びにあふれていると同時に、日本の造船技術の底力の源泉である技術者の自信が満ち溢れていた。

さて、そろそろ、今年建造船の応募に備えた準備に入る頃だ。来年の選考委員会にでてくる応募作品が今から楽しみだ。

大型客船の部門賞には新日本海フェリーの「あざれあ」が選ばれた。

小型客船の部門賞は、長崎汽船の離島航路船「鷹巣」が受賞した。

クルーズの第一人者である
池田教授がわかりやすく解説
クルーズとは何か？
クルーズの楽しみ方
クルーズの歴史
現代クルーズの特徴
クルーズマーケット
港湾との関係
2018年
4月発売！
基礎から学ぶ
クルーズビジネス
池田良穂著
定価（本体2,800円＋税）
発行 海文堂出版
ISBN978-4-303-56220-5


なぜクルーズが世界中で
ブームとなっているのか？
クルーズビジネスの今を学ぶ！